

令和5年度 大阪府茨木支援学校 第3回学校運営協議会【議事録】

令和6年2月5日(月)

茨木支援学校会議室

時間：10時～12時

○はじめに<事務局からの連絡>

教頭(司会)：生憎の天気の中、ご参集いただきありがとうございます。ただいまより第三回学校運営協議会を開催させていただきます。今年度も残すところ2か月。本校では感染者が増える時期があったが感染症対策を見直しながら教育活動、行事を進めている。このまま卒業式、修了式を無事に迎えることができるようにしたい。

○校長挨拶

校長：冷たい雨の中参加いただきありがとうございます。今日は本校事務局の方、急な出張や事案対応で参加できない教員が複数居り申し訳ありません。現在インフルエンザB型が流行っているといわれているが、本校で蔓延してはならず、これまでの経験からいろいろな感染拡大対策もできるようになってきている。今日はまたつらい話をしなくてはならない。第一回目の学校運営協議会ではベッドからの転落事故について話をしたが、先週の木曜日に児童が回転式の椅子の背もたれにお腹を向けて座った状態で活動中、廊下の縁のアルミ部分にキャスターが引っかかり椅子ごと転倒し、児童の前歯を2本欠損する事故があった。安心安全を徹底すべき学校でこういう事故がおこってしまった。今後どうすればこういう事故がなくなるか。まずは学校内で危ない状況をお互いに気づき言い合えることが大切だと考えている。今週はお互いに確認しあうこと、また日常の安全点検以外の場所についても時間をかけて安全点検することになっている。保護者へは金曜日夕刻に周知した。これからたくさんお叱りを受けることと思うが、真摯に受け止め前進していきたい。

教頭：資料確認

1. 令和5年度学校経営計画評価について

校長：評価指標に対して、○は達成できた、◎はよくできた、△は達成できていないという表記で表している。学校教育自己診断アンケートで数値的に達成できていない項目についても△で表記している。ひまわりフェスタでの変更点の共有や個人情報の取り扱い、高等部での学級閉鎖、食物アレルギーに関する項目で△となっている。個人情報の取り扱いについては、きちんと配付はできたが回収のところでは紛失があった。

外部へ漏れることはなかったが、今後回収についてのチェック機能を進めていく。

また、「2（5）ア」webについての情報公開の項目で学校教育自己診断アンケート数値が下がったことは、さくらメールが浸透し、webを直接見ない保護者が増えているのではと考えている。

会長：校長先生より話があった児童の事故の事案については、まだ先週の話ということで、先生方の気持ちも動揺されているだろう。教育委員会への対応もあるだろうし、児童に対応された先生もしんどい思いされているだろう。子どもがショックを受けているのではないか。しゃべれない子だとしたら、学校に行きたい気持ちをなくさないようにしてほしい。先生方が子どもたちのために考えてされていることは、ちょっとしたことで天国から地獄に落ちるようなことがある。あっというまに信頼がなくなり、またその信頼を再構築するのに非常に時間がかかる。どうか先生方がめげずに管理職の先生方と一緒に萎縮せずがんばってほしい。個人情報のことでは、昨今「こんなことが個人情報？」というようなことがあると思う。学校経営計画では数値目標をきちっと書いてもらっている。私は数値目標を記載することに自信がなく、こういう書き方ができなかつたので非常に素晴らしいと思う。全家庭が電子配信のさくらメールをずっと使いこなせるか心配していたが、これも時代の流れだと感じている。

校長：実は当該児童が今日から登校しており、指導教諭がその児童に付き添っているためこの場にはいない。当該児童はとっさの時に手が出ないので、痛い思いをさせて本当に申し訳なかった。

委員：事案の件。さくらメールでいただいたときに、「こどもが痛い、怖い思いをさせてしまい」と書いていただいたことで子どもを視点に考えていただいていることを感じてホッとしました。

2. 令和6年度 学校経営計画（案）について

校長：令和2年度から4年間の長期計画を「すべての人が将来に希望をもち・・・」という文言に変えた。「こどもたち」という言葉が好きだったが、准校長の思いを受けて、「児童生徒」という言葉に代わっている。

目標設定では数値目標を掲げている。後半部分は暫定で書いているが、学校全体としての流れとしてはこれでいきたいと考えている。2枚目以降は次年度の学校経営計画の場で説明させていただきたいと思っている。

会長：「わかりやすく」変えていただいている。基本的にはこれまでの継続的な取り組みを進めていっていただくのかなと理解している。

校長：「2（3）ウ」昨年度、年度代わりの多忙な時期に食物アレルギーに関する確認を保護者にしてもらっていたが、保護者に確認する前に先走って指示書を作っていたという事態が発覚した。9月以降は2か月前から前倒して多くの目と手で確認チェックすることになった。食べる前の確認に加えて食べた後の確認のチェック機能も、と改善している。しかし、栄養教諭の個人の能力を超える大変さがあり、段階食や食物アレルギー

一など、栄養教諭がつぶれないよう何とかならないかと思っている。

委員：R6年度の経営計画にも反映させてください。

委員：教育公務員としての「高い人権意識」というのは、今現在「低い人権意識」ということか。一人一人の意識であるところの「高い」というのは評価しにくいところ。

校長：准校長の熱い思いがあるところで「高い」となっているが、文言をもう少し考えてみたい。

会長：「教育公務員としての」というところだが。今、全国的に教員志望が減って倍率が低くなり、教員志望の学生が減って、優秀な人材が抜けてしまうのではと心配している。学校自体が自己研鑽、研修など今まで通りのことをしていていいか点検が必要では。保護者が安全して預けられる学校であってほしい。「先生ハズレや」という保護者がいる。親が心配しなくてはいけない学校にならないように。謙虚にいままでのことを振り返る体制を見直してほしい。体罰もちょっとしたことで起こる。ベテランの先生でも起こりうる。新任の先生ならなおさらだ。

校長：先生方は日常的に向上していくものと考えている。以前はダメなことはダメと言える、そういう雰囲気があった。今、ああいうのはあかんよね、というのを黙っている雰囲気がある。日常的に言い合える、聞きあえる、指摘しあえる雰囲気は大切だと思う。研修の内容については、今年はテーマを決めて研究部が学習指導要領の3観点に焦点を定めて研修を行った。

委員：学校からの「発信」に対して保護者が「返信」できることになっているか。

校長：学校に来校されたときに直接話をされたり連絡帳で書いてこられたりなど、手段は全て電子ではない。

委員：心配事などについて、直接やりとりすることはあるか。

校長：保護者との連絡手段については個々の先生方に委ねているので、詳細はわかりかねるが、学校アドレスに直接ご意見を送ってこられる保護者もいる。

委員：発信数はわかるが、それに対するレスポンス、やり取りについての部分は。

校長：全保護者に返信することが難しい。

委員：働き方改革とも繋がるが、各先生方のリターン（保護者とのやりとり）に結びつく方法、先生方と何らかのコミュニケーションのとりかたがシステマ的にあればよいかなと思う。

校長：今、8:30~17:00までしか電話対応できないことになっている。

もちろん多くの不満があるのも事実。府からの指示だが、自分の携帯で時間外のやりとりとなる。さくらメールは開封メールで読んだかどうかの確認はできる。連絡帳に書かれるときはだいぶ不満がたまっている。電話を5時でとめているところのリスクは大きい。働き方改革が形式的。先生方の残業時間が80時間超えないようにとは言っているが、実際には70時間を超えている先生方も複数おられる。会議などは減らしていこうとはしている。

委員：目に見えないところでたくさんやりとりされていると思う。発信するという計画がそれでよいのか。それに対する返し（やりとり）についてはどうかというところ。

委員：さくら連絡網をもっと活用していければと思う。他校にいた時も便利だと思っていたが。欠席連絡ができて便利。HPなど、自立活動の先生の「基本のき」など、利用しやすい。ただ、必要なところに情報が届いていないのではないか。いろいろ掲載してもらっているの、それを発信していければ。これからはさくらで情報提供を知らせてもらえるので、もっと情報が広がればと思っている。

委員：誤字がある。「令和6年度 学校経営計画及び学校評価」の「3.1(1)(イ)」
「教職員間で合図をスムーズに遅れる環境を整える」のところ
⇒送れる(正)

3. 令和5年度 学校教育自己診断アンケートの評価について

首席：資料に則って説明。昨年度との比較も載せている。実施時期は書いてある通り。
実施方法基本 구글フォーム。今後の課題として回答率低下がみられた。回答にグーグルアカウントが必要であったり紙での回答を希望される場合は個別に申し出たいたり、手続きが煩雑と感じる回答者が一定数あったかと考える。

会長：丁寧に説明いただきました。

回収率、教職員の回収率が100ではなくなっている。未提出2名不明が4名については？

校長：最後に送信ボタンを押せていない人がいる可能性がある。悉皆なので来年度未提出がないようにしたい。

会長：HPの更新は月終わりに更新？随時？時期が決まっている？見ておられない保護者が多いということか。

校長：コロナの時は保護者も情報が知りたいので、HPを覗きにいっていったが、今は必要なことはさくら連絡網で配信されているのでHPを見ない保護者も多くなった。

会長：更新はタイムリーにと思いながらも限界がある。できる範囲で配信していただきたい。誤字や変換ミスがないようにしていただきたい。今後の課題としては教職員の無回答がないように、始める前に伝えるなど。

校長：未回答はスクロールの問題。昨年度はここまで多くはなかった。システムの問題で、意図してやったわけではないと考えている。来年度さくら連絡網で実施し、それでも困難であれば紙でのアンケートに戻すことも考えている。不明も本来はいいない。

委員：必須にできないのか？

委員：今回は府から送られてきたものの一部文言を変えて使用した。

首席：グーグルフォームひな形は府から送られてきたもの。無回答を可とする設定についてもそのまま使用し、わからないときはそれでOKという形にした。必須にすべきか否かも含めて来年度検討していく。

4. 令和5年度 授業アンケートの結果について

教頭：2回目は全学部で同一週で行った。回収数は表のとおり。資料に則って説明。

キャリアマトリックスは完成した。来年度実践的に活用を進めていきたいと考えている。言葉かけなどについても教員の指導にご意見いただいていた。いただいたご意見に満足せずに、今後も人権尊重を大切にしながら、学校全体で取り組んでいく。

委員：これは保護者に配布しているのか？

教頭：授業アンケートについては保護者には公開していない。

委員：保護者からのご意見「厳しい」ではなく前向きに。一緒に考えてよりよくしていこうという捉えで。もう少し学校側がポジティブに書いてもらえたらと思う。

教頭：わかりました。

会長：評価というものは誰かを想定してその立場でしか見ない。表現は難しい。保護者の気持ちもくみ取っていただいて、表現していただければと思う。毎年、100点満点なんてありえない。本校だけでなく、他の学校も厳しい意見は受けているかと思う。

5. その他

会長：(特にないことを確認) 議題としては終了。

6. 意見書について

教頭：提出なし。